

令和3年度第1回亀岡市総合計画審議会進行管理部会 議事要旨録

日 時：令和3年8月24日（火） 14時00分～16時30分

場 所：亀岡市役所6階 602・603会議室

出席者：原田禎夫部会長、手塚恵子副部会長（WEB）、浅田信仁委員（WEB）、
今里佳奈子委員、大槻正一委員（WEB）、木村好孝委員（WEB）、
渋谷幸雄委員（WEB）、結城直人委員

欠席者：なし

議 題：1 開 会

2 議 事

（1）第4次亀岡市総合計画後期基本計画に係る総括について

（2）第5次亀岡市総合計画における進行管理について

3 閉 会

1 開会

2 議事

- （1）第4次亀岡市総合計画後期基本計画に係る総括について、資料No.1・資料No.2に基づき説明（事務局／關本）

部会長

4ページを見ていただきたい。第2節の「審議会等への女性の登用の比率」が、0.5%増えただけだが、計画策定時から数値が向上しているため、「○」を付けていただいている。ほとんど変化しない状況を、どう評価したらいいか。

自治体加入世帯率は、現状維持が目標であったが数値が向上しており、機械的に「◎」と評価をしていただいている。

もう一つ、資料No.2の目標達成度を、今まで通り数値で示すことが適切かどうか。内容によっては数値で測れない。「◎・○・×」で表すと、分かりやすくなるが、4ページの達成度との違いが分かりにくくなる。

これらの点について、ご意見いただきたい。

A委員

様々なトピックを挙げられ、それに対するアプローチをされている。アプローチをされるということは、市として改善していきたい項目があるからだと思う。

そもそもアプローチをしなかった場合、どういう傾向にあるか、シミュレートはあるのか。

事務局

ある程度の方向性はあるが、具体的な数字は想定していない。

A 委員

達成度がそれほど変化しなかった場合、亀岡市の活動がどうだったのかという見方があると思う。もし、何もしなかったらこんなに減っていたが、市の活動により成果が上がったという見方ができると思う。

部会長

進行管理を始めた時に議論になった点である。市役所の窓口で住民票を発行する業務があるが、たくさん発行したからといって、成果ではない。水道の水は、蛇口をひねると滞りなく出てくるが、状況が劇的に改善されているわけではない。通常通り行政サービスが提供されていることは、すごく大事なことだが評価を受けづらい。自治会加入率は放置すると減少する。自治会加入率は他の市町では減少しているなか、現状維持はすごく頑張っている。そこを我々はどう評価したらいいのか、繰り返し議論になっている。今は機械的に評価をしていただいているが、別の表現方法があるか、言葉として補足していくか、そういったことを議論いただきたい。

B 委員

数字は過去と未来を見定めるものとして、真実を物語ると思う。絶対評価、相対評価、比べるものがある、取り組む目標が定まっていると思うので、数字は大事だと思う。微妙な数値の差は、こちらがどう受け取るかだと思う。

部会長

目指す目標について「◎・○・△・×」の4段階で評価しており、資料No.2の目標達成状況を記号化するのであれば、3段階ではなく揃えた方がいい。

あと、何%で達成とするか、大学の試験は60点で合格だが本当に60点は良いのか。学校のテストだと、90点はすごくいい成績だが、ここでは90%未満は未達成。どの辺で評価の仕切りを設けるかが大事なポイントだと思う。

C 委員

達成度と達成状況を併記したらいいと思う。記号は統一したうえで、視覚的に分かるようにすると、分かりやすいと思う。

D 委員

資料No.1の4ページの、「審議会等への女性の登用の比率」で、令和2年度の実績が32.8%。90%以上で概ね達成の「○」となるはずで、なぜ「○」か。

90%が「◎・○・×」になるかは、元々の目標の立て方だと思う。目標の中には、それができたら素晴らしいという目標もあれば、それを割り込んだら最悪だというものもあると

思う。その辺りを目標達成度に統一しておかないと、何%だから良いとは言えないと思う。元々立てた目標は、どうであったか改めて説明していただいたらと思う。

事務局

2ページの目指す目標の凡例と、4ページの目指す目標の達成度が対応している。各節における目標達成度とは別の評価基準となっている。

部会長

もう一つの指摘が、目標のそもそもの趣旨で、例えば自治会加入率が80%を割り込むとまずいことが起こるという意味での現状維持が一つの目標の立て方であるが、それに対し、女性の登用は社会的な要請でもあるので、理想を目指し50%に引き上げる目標の立て方、それが混在しているので確認した方がいいのではということでした。

副部会長

目指す目標の達成度は、取り組みやすさと取り組みにくさもあると思う。自治会加入率を上げることは非常に難しいと思う。「審議会等への女性の登用の比率」は、市役所や団体が汗をかけばできることだと思う。その違いは説明をした方が分かりやすいと思う。

E委員

自治会の加入率の問題について、アパートの入居者はほとんど自治会に加入されない。自治会加入率の分母は何か。

事務局

市全体の世帯数に対する自治会加入世帯数の割合。アパートによっては一括して加入されているところもあれば、個々に任されているところもあり、様々なパターンがある。今は入居者が加入されないことが多くなっており、数字が落ちる傾向にあるところを維持していきたいという目標を立てている。

E委員

自治会を維持していくためには入居者の加入が必要だが、アパートの所有者だけが加入されて、入居者は地元の行事等に参加されないことがある。自治会もどのように加入していただくか、考えられていると思う。

部会長

亀岡市内に大家さんがおられる場合は理解があるかもしれないが、京都市内や大阪方面に大家さんがおられる場合は、自治会のことを知らないということが起こりうる。

宅地の開発やマンションやアパートの建設時には、地元への説明や同意を条件として、お金だけの関係になるかもしれないが、加入していただくと広報紙が届くようになる。

自治会加入率は、市として全くコントロールできないと言えない。総括を見た時に、市としてやってきた内容が伝わるようになっているかが大事。

放っておいて、もし下がってしまうとどうなるか、伝わるメッセージを出すことが大事。

E 委員

着手率が100%に達していない事業はあるのか。

事務局

まだ全ての計算ができていないが、前期基本計画では90%台がいくつかあった。

E 委員

市民からすると、着手率が100%でないものが問題ではないかと思う。コロナ禍で影響を受けた事業も相当あり、なぜ着手できないのか市民からは関心があると思う。3ページの全体の着手率及び、各章だけでなく、各節ごとの着手率と達成度を関心がある人は全て見られると思う。

部会長

着手できなかったのか、政策的な理由で着手しなかったかは異なる。そこを分かるように、できなかった理由は大まかに説明するべき。

話が戻るが、目指す目標の評価の部分、「△」を含む4段階と含まない3段階、どちらがどうか。何%で区切るかは、また後で議論いただく。

D 委員

考え方は資料No.2の方が、分かりやすいと思う。「△」を入れて4段階とし、目標を基準とするべき。資料No.1の2ページは数値が上がっているか、下がっているかで表しているが、資料No.2は目標達成に対する達成度なので、資料No.2の方がいいのではないか。

部会長

100%は100%以上とするべき。資料No.2を適用していくという提案に対し、他の委員の皆様はどうか。

B 委員

賛成である。

事務局

目指す目標と各節ごとの目標達成状況は、基準が別になっている。目指す目標はパーセンテージで示しにくい目標に対する実績があり、数字で表せないところもある。各節ごとの目標達成状況は、数字で表すことができる。4ページ第1章第2節の「審議会等への女性の登

用の比率」は、目標を50%としており、実績が32.8%。単純に割合は出すことができると思うが、そのような計算方法で良いか。

F 委員

資料No.2の目標達成状況に係る注釈に、資料No.1の2ページにある目指す目標の凡例を合わせるということか。

部会長

然り。2つ基準があると分かりづらい。目標を基準に、評価するべきでないかという意見がある。

F 委員

評価は分かりやすくシンプルな方がよいと思う。資料No.2にある記号でよいと思う。概ね達成の「○」が、達成されているのか、少ししか数字が上がっていないものもあるので、概ね達成の言葉がどうかと思う。記号は3つでよいと思う。

部会長

単純に「○・△・×」でどうか。「○」は100%以上、「△」は90%~99%、「×」は目標に全然届いていない。「△」と「×」のラインをどこに引くか、を議論したい。例えば「△」は80%~99%にするとか。

A 委員

「◎」と「○」となると、「○」は良いイメージがある。概ね達成はまだやらないといけないう意味での「○」か。そういう意味では「△」では。「◎」は想定以上の結果が出たということでは。

子どもが小学校に通っており、通信簿を見る。「◎・○・△」と表記してあり、「○」は「とりあえず稼いできた」となり、「◎」は「すごくよくやった」となる。

亀岡市が弱い数値を設定しているのではなく、この目標を達成するには厳しい努力が必要だったという高い志の目標であったならば、「◎」の達成は辻褄が合っていると思う。

部会長

110%以上で「◎」とか。亀岡市の強みとかを表現していくには、「◎」があった方が、分かりやすいかもしれない。

D 委員

「○・△・×」が良いと思う。全てを「○・△・×」で付けていくと、目標を立てる時に、この目標は絶対に達成しなければいけないという目標の立て方をしないといけない。すごくよくできたものには、「◎」を付けてもいいかと思う。

部会長

全てを数字で評価するわけではないが、数字で評価する場合は「◎」を設けるとして、何%で「◎」を設けるべきか。

A委員

100%以上ではないか。

部会長

100%以上が「◎」、目標に届かなかった90%~99%は「○」ということか。

A委員

行政活動の考え方と、会社で勤務する者の考え方が違う。企業の考えでは、目標は達成して当然である。

C委員

シンプルな「○・△・×」がいいと思う。100%以上でも「◎」は使わずに、「○」でいいと思う。「△」は、75%か80%~99%で、あとは「×」でいいのではないと思う。パーセンテージで評価できないものは、ABC等の記述で評価してはどうか。

D委員

パーセンテージで評価できないものは、「○」か「×」の2択でいいのではないか。

部会長

100%以上は、多くあるのか。

事務局

成果として100%以上はあるが、調書作成の決まり事で、100%以上も100%という表記で整理しているので、各節ごとの目標達成状況でいうと、計算上は100%が上限となる。

A委員

100%の中に埋もれてしまうのか。

事務局

然り。

部会長

9 ページ第2章の目指す目標の達成度を見ると、第3節の交通事故の死傷者数や街頭犯罪認知件数が、目標を大きく下回っており、直感的には「◎」だと思ひ、担当課からすると「◎」が欲しいと思ひ。

A 委員

100%を超えてくるのは、一生懸命活動されたから、そうなったと思ひ。
そもそもの目標設定が、低かったという見方もできなくはないのでは。

事務局

目標設定時には様々な状況を考慮しているが、結果的に高すぎた低すぎたというものはあると思ひ。

部会長

資料No.2に合わせて、3段階で評価しましょうか。すごく成果が上がったものは「◎」があればいいと、もし自分が担当職員なら思ひが、成果の内容は解説の文章で表現していただき、評価はシンプルに誰にでも分かる形でしましょう。数字で評価しづらいところは、「○」か「×」かの2択で評価することよろしいか。

全員同意

部会長

次に「△」を何%にするか。資料No.2では90%だが厳しい評価である。先ほどご提案いただいた75%、80%について、何か意見はあるか。

E 委員

100%以上を「◎」して、「○」、「△」、「×」を資料No.2のとおり持ってきたらいいのではないか。100%達成は普通の「○」で。75%以下が「×」、75%以上85%未満を「△」、85%以上100%以下が「○」、100%を超えたら「◎」で。

部会長

以上以下はどちらにしましょう。「×」が75%未満、「△」が75%以上85%未満、「○」が85%以上100%未満、「◎」が100%以上かどうか。

D 委員

甘いと思ひ。

E 委員

人権尊重や人権教育は10年間のことではなく、永年に渡る課題である。計画される段階

では、ほとんど100%が当たり前であると思う。

部会長

個別の事項については、別の機会とする。

D委員は「×」と「△」の境目は何%だと思うか。

D委員

「×」が80%未満、「△」が80%以上99%未満、3段階がいいと思う。

部会長

3段階か4段階か決めたいと思う。

A委員

先ほどの事務局からの説明では、100%の中に100%以上が含まれているとの説明である。

事務局

各節ごとの目標達成状況は、100%以上の数字は出てこない。

目指す目標は大幅に超えている場合は、「◎」を付けることは可能だと思う。

部会長

100%を「◎」として残しておくことで、どちらでも使える。

D委員

章ごとと節ごとの目標達成度の計算の仕方として、100%を超えたものを100%として扱うということか。

事務局

節ごとについては、たくさん事業が含まれており平均を出しているが、各事業の達成度が最大100%として出している。

D委員

そうすると章と節はどれだけ頑張っても、100%以上は出ないということか。平均をとると120%でも、100%との平均になってしまう。

できたかできないかというところでは、きちんと目標を立てたところが達成できたかできていないかで判断するべきと思う。

部会長

D委員の案は、80%未満が「×」、80%以上90%未満が「△」、90%以上100%未満が「○」、100%以上を「◎」ということだが、どうでしょうか。

部会長

整理すると、評価の基準を統一して、「×」は80%未満、「△」は80%以上90%未満、「○」は90%以上100%未満、「◎」は100%以上でよろしいでしょうか。

副部会長

今の案の90%未満が、新しい基準だと「概ね達成」の「△」に変わるのか。

部会長

言葉の表現は次に議論したい。

副部会長

パーセンテージとして、90%未満が今は未達成になっているが、新しい基準では80%以上90%未満が「△」の印になる。記号が示す意味合いで、誤解されるのでは。

部会長

「◎」は達成、「○」は概ね達成、「△」は未達成、「×」を著しく未達成とするのは厳しい表現か。

副部会長

目指す目標と、章と節で、計算の仕方が違うのは難しい。

A委員

双方の計算方法が違う理由はあるのか。

事務局

目指す目標は5年後の最終的な目標に対する実績で、節ごとの達成状況は各事業がその下にあり、毎年目標を設定し100%を上限とする達成度を出している。そのうえで、5か年で合計の達成率を出し、節で平均値を出している。単純に目標に対するものではない。

A委員

節ごとの達成度は、その年に100%を超えた貯金を、翌年に使えないということか。

事務局

然り。

部会長

各章全部を見ると、達成度が全部「◎」のところはない。目標達成度100%以上で「◎」は含まれてくる。資料No.2のとおり、「◎」がある可能性としてあるのか。

事務局

資料No.2は節ごとなので、100%はあるかと思う。

部会長

4段階の評価でいいか。

目指す目標の達成度は代表する数字で評価してみたということで、できていることとできていないこともあるが、客観的に分かりやすく評価してみましょう。

副部会長

「△」の点数が少し高いと思う。

部会長

「◎」は達成、「○」は概ね達成、「△」は未達成、80%未満を「×」で著しく未達成でいかがか。

副部会長

結構。

部会長

整理する。100%以上が「◎」で達成、90%以上100%未満が「○」で概ね達成、80%以上90%未満が「△」で未達成、80%未満が「×」で著しく未達成とし、節ごとと目指す目標の達成度の両方に適用する。

数字で表現できるところは機械的に評価したらいい。各章に目指す目標の達成度があるが、例えば4ページの第1節から第3節は数字で評価し、第4節は「○」か「×」の2択か、「◎」と「×」のどちらでの評価がいいか。

D委員

達成しているのであれば、「◎」がいいのではないか。

部会長

100%以上ということで、「◎」とする。

9ページは全て数字で評価できるので、4段階で評価する。

15ページの第1節は、市で把握できる数字と国の基準に乖離があるので、「×」になるのは仕方ない。文章で補足説明をしてください。国は対象となる総人口に対する目標値を定め

ているが、市役所は職場で検診を受診されている人を把握できない。国民健康保険の人や会場に来られた人の数字ということ、下に米印で記入してください。

委員の皆様よろしいか。

全員同意

部会長

22ページの第4章第4節は、目標では策定となっているが、実際は策定できておらず、検討いただく段階となっている。事務局の意見はどうか。

事務局

「○」が概ね達成であれば、「△」の未達成が妥当かと思う。

部会長

ここは「△」でいいか。

全員同意

部会長

30ページは数字で評価できるところばかりなので、機械的に評価してください。資源化率は市で受け入れたゴミの資源化率であり、市内全体のゴミの資源化率ではない。ちなみに自治会等で廃品回収された分も入っていないのか。

事務局

入っていない。

部会長

把握できていない分が多くあるので、補足説明を入れてください。

38ページ第6章の観光入込客数はコロナの影響が大きいですが、数字で評価いただくということによろしいか。

あるいは観光は、コロナの影響を大きく受けているので、注釈で「令和2年度は新型コロナウイルスの影響により大きく減少」と書いてもいいと思う。

46ページ第7章第6節の住宅の耐震化率は、測定ができないということで、評価無しとなっている。第7節の新火葬施設整備構想の策定は、策定済なので「◎」のまま。第8節の情報化推進計画は、事業を推進しているので「◎」で。

55ページ第8章は全て数字で評価できる。

委員の皆様から何かあるか。

副部長

46ページの第7章第8節の情報化推進については、亀岡市は進んでいるし、頑張っていると思う。何を頑張っているのか分かるように書かないと、ここが「◎」ということが分からない人がいるかもしれない。花丸でもいいと思う。

部長

コロナ禍でのテレワークやオンライン会議は、第4次総合計画には含まれていないのか。

事務局

然り。今年度の第5次総合計画の期間に入ってから取組が多い。第4次総合計画の期間の第7章第8節の情報化推進の取組は、54ページに文章で書いている。

部長

令和2年度後半にコロナ対策として、前倒しでされていることはないか。

事務局

情報通信の整備は大きな予算も必要であり、令和2年度中に大きく成果があったことはない。

部長

コロナの対応で進んだように思うが、第5次総合計画の期間中となる。

E委員から人権のことは、ずっと100%で当然との意見をいただいたが、実際は91%の達成度。数字的には参加人数等を掲げられているが、E委員から何かあるか。

E委員

人権尊重・人権教育・平和は、日本国の永久の課題であり、先輩方が取り組んでこられた。計画性をもってやっていこうということならば、全て100%となる計画を立てるべき。ポスター掲示や子どもたちへの啓発運動の取組だと、常に100%が出るのではないか。

部長

数字としてみて、人権教育講座等への参加者の拡大とあるが、目標から大きく下回っており、コロナの影響もあるかと思う。それは仕方ないとして、各ページには「できました」という表現はたくさんある。できなかったことを書くことに、気が進まないのは分かる。全体を通してできたことと、できなかったことがあって当然で、今のスタイルから脱却していくことも大事。例えば「人権教育講座のあり方を時代に即して、見直していく必要がある」など。あるいは第5次総合計画で具体化していただいているが、「ヒロシマに学ぶ平和の旅」は、今年度から修学旅行を平和学習として、行き先を広島に変えていただいている。前年度までは検討されていたと思うので、検討したこととか、課題をどう捉えているか、全ての節の「取

組の課題と今後の方向性」に、具体的にあっていると思う。課題が多いのは悪いことではない。何か理由があり、できないことを課題としてしっかり把握しているかが、大事と思う。全部が改善できないことは、皆分かっている。

C委員

市民として未来のまちづくりを目指すという意味では、できたことを挙げるのではなく、ある程度の目標を明示して、市役所の人に提示してもらいたい。コロナの状況でG I G Aスクール等をどこまでやっているか把握できていない。市の職員から、もう少し詳しく教えていただきたい。

部会長

第4次総合計画から第5次総合計画へ切り替わるところであり、策定に向けてどういう議論をされたかとかを発信できたらと思う。

D委員

「取組の課題と今後の方向性」とは、少し違うと思う。

部会長

職員からのメッセージがあればいいし、市民に対するメッセージでもいいと思う。市役所も頑張っているから、市民も頑張りたいな、一緒に頑張らないといけないわけだから。全部市役所に任せられても困る。市民への広報が大事なのも分かる。

A委員

どういうことを課題と捉え、それを解決するために、継続して取り組むことが大事だと思う。様々な活動のアナウンスがある。

勤務先が京都市内で、京都市役所の公式LINEも登録しており、住まいは亀岡市で、亀岡市役所の公式LINEも登録している。双方から情報が来るが、亀岡市からのLINEの情報の方が圧倒的に多く、ほぼ毎日情報が来る。京都市役所は、毎日来ない。市民に向けて発信する内容は、多くの部署があるので、1日1件はあると思う。亀岡市役所からの多くの情報が、LINEから得られるのはありがたい。

副部会長

第1章第1節の人権尊重・平和と、亀岡市が推しておられるSDGsは関係があるはず。関係が見えないのは、SDGsは第5次総合計画で位置づけているので、第4次総合計画では見えないのか。

事務局

5年前に作成した第4次総合計画後期基本計画に対する総括であり、まだその時にSDG

sが無かったので、計画上は位置付けが無い状態。

部会長

行政計画として作成した時に、そもそもSDGsが無かった。SDGsの宣言をされたのは、令和2年度。全体の冒頭部分のところで少し触れておき、「具体化するために第5次総合計画で発展させました」と入れることは可能だと思う。

事務局

資料No.1の1ページに表題だけ入れており、文章を書いていない部分がある。そこで触れたいと思う。

F委員

目指す目標の達成度を確認してきて、各節で数字を立てて1つか2つ選んで目標を立てて取り組むが、様々な取組をしている。第1章第2節の男女共同参画で、「審議会等への女性の登用の比率」が目標になるが、LGBTQ+の制度も実施しており、進んだ取組もしている。あくまで目指す目標だけでなく、他も取組をしっかりとやっている、PRされた方がいいと思う。

部会長

亀岡市は先進的な取組もされているので、それが市民に伝わらず、一部でやっていると思えられると逆の効果になる。

(2) 第5次亀岡市総合計画における進行管理について、資料No.3に基づき説明 (事務局／關本)

部会長

いつも駆け足でヒアリングをしており、職員に負担をかけている。進行管理を開始した時は、調書も含めてできるだけ簡単な作業で、かつ特別な事業だけでなく、ルーティンワークのような仕事も大切な業務なので、評価していきましょうという趣旨でやっていたが、実際にそうするのは難しい。委員の皆様もヒアリングで突っ込んだ話ができていない。政策、施策、事業とあるが、大きな話をしたらいいのか、各事業の細かい話をしたらいいのか、区別がつかないこともあった。

挙げていただいた課題と、委員の皆様のこれまでのご経験を踏まえ、第5次総合計画の進行管理で、こうした方がいいのではないかとのご提案をいただけたらと思う。

大きな事業や予算ゼロでやっていたりしている事業もあるが、お互い緊張感を持つために、無作為という形もある。一方、重点事業から選ぶこともある。

無作為抽出について、いかがか。何かテーマを持って抽出することや、年度で章に分けて抽出する考え方もある。

職員から何か課題はあるのか。

事務局

他に、主要事務事業、行政改革の調書、予算関係の調書もあり、似た調書を作成していくことが負担に感じていると思う。

部会長

主要事務事業の調書とはどんなものか。

事務局

主要事務事業は、今年度進行中の事業が計画通り進んでいるか、時間の経過とともに把握しているもので、評価ではなく行政内部で進捗を管理するものである。その年度の主な事業を20程度抽出している。

行政改革は審議会があり、重点的に改善すべき事業を抽出し、その改善計画がうまく進んでいるか、評価する調書である。今年度は13事業が対象となっている。

中身は職員からすると同じように思えるかもしれないが、それぞれに目的があり、その目的や一つ一つの調書の意味が、職員に浸透していないことが行政内部の課題としてはある。

部会長

調書が多く、本来の業務の時間を割いて書いてもらうのは本末転倒。今日決断するわけにはいかないが、日を改めて、行政改革推進委員会の会長さんと一緒に、調書をチェックしてみてはどうか。似たようなことがあれば、そこは一緒にいいと思う。

似ているが微妙に異なることを、何個も作成しないとイケないのは、嫌な作業である。

事務局

行政改革も計画があり、その計画に基づくことを進行管理していく審議会がある。総合計画も計画があり、それを進行管理する。それぞれ目的が違うので、それぞれの計画をうまく進めるために設けているものであり、2つの調書を作成するという職員の負担のことは、あまり考えてもらわなくてもいい。職員の業務として考えるべきで、今議論いただきたいのはヒアリングを有効に進めるためにはどうしたらいいかであり、職員の負担のことはその次であると思う。

部会長

事業の評価をするヒアリングのあり方を先に考えるべきとの事務局からの説明だが、委員の皆様から何かあるか。

D委員

職員にとっては毎年の調書の作成と、ヒアリングのための準備、どちらが負担になってい

るか。

事務局

進行管理調書は毎年、全ての部署が5年間をかけて更新していくが、ヒアリングは選ばれた事業の担当課のみが対応しており、当たるところと当たらないところがある。後期基本計画のヒアリングの調書は、進行管理調書から抜き出して作成するようになっているので、ヒアリングの調書作成は、負担ではないと思う。プラスアルファで事業を説明する際の資料は、既存のものがあればいいが、新しく作ることもあるので、その時には多少負担になるかもしれない。

D委員

毎年作成する方は、どれくらいか。

事務局

総合計画の進行管理は、最初に5年間の計画を作成する際には、5年間の数値の目標を設定する必要があるので、手間がかかるかもしれない。その後は1枚の調書に対する実績を記入していただけないので、それほど負担ではないと思う。一人の担当でたくさんの事業を持っている場合は、調書の枚数が多くなるので、担当によっては負担になることも有り得る。

部会長

評価をさせていただいて、新たな事業をされたり、次の施策を考えてもらったり、どれだけ参考にさせていただいているかがなければ、職員にとっては「ただ単に評価を受けて、運が悪ければヒアリングに当たってしまい、面倒くさい仕事が増えただけ。5分、10分の話で何が分かるのか。」という気持ちになっていくと悪循環だと思う。市の重点や強みを持っている施策や課題があるのは分かっているが、新しいやり方はどうやったらいいか、お互いによく分からないものもあると思う。委員の皆様が、深く話を聞いてみたいというものがあれば、コロナの影響があるかもしれないが、現場や施設を見学する場を設けてもいいかもしれない。ヒアリングの時間だけでは、話を聞ききれない部分はあると感じる。

D委員

ヒアリングがある事業は、後期基本計画のテーマに沿って施策が出てくると思う。そういう事業を深掘りする意味はあると思う。

副部会長

今までのヒアリングは、委員が職員に試験をしているような感じがしている。目的はより良く市役所の仕事をやっていただくためだが、採点主義になっている気がした。委員の負担は増えるが、現場に行くことをしてみると、採点する側とされる側の垣根が無くなると思う。

部会長

面接試験をベルトコンベア上でやっている雰囲気はある。具体的な方法は今すぐ結論を出せないが、新しい計画もスタートするので、今までのような調書のチェックだけでなく、お互いに議論できるやり方を、事務局と相談しながら折を見て委員の皆様に報告し、考えていけたらと思う。逆に、我々にヒアリングしていただいてもいいと思う。

3 閉会

以上